

2011年度

科目名	障害児指導法演習				
担当教員	石川 慶和				
配当	教福3			コード	44055
開期	前期	講時	木曜日4限 木曜日5限	単位数	2
授業テーマ	障害のある子どもの実態把握、個別の支援計画の作成、保護者との連携、チームアプローチ等について実践的に学ぶ				
目的と概要	発達障害(LD・ADHD・高機能自閉症等)、知的障害、肢体不自由等の子どもとの関わりや支援実習を通して、個別の指導・支援計画の立て方や指導・支援の方法を実践的に学ぶこと、及び、障害のある子どもの保護者の悩みや心情等を理解することが、この授業(演習)のねらいである。今後の特別支援教育の実践に役立つことを期待している。				
成績評価法	実践実習への参加態度(40%)、事例検討会の参加態度(20%)、実践実習の観察記録報告(20%)及び、個別の支援計画作成(20%)により総合的に評価する。				
テキスト	随時プリントを配布する。				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	＊ 本科目は 木曜4限・5限の連続授業です。 ＊ 初回は担当する事例を決めるので、必ず出席すること。 ＊ 実践に携わるものとして、責任ある態度・行動をもって臨むようにしてください。				
講義計画					
1. オリエンテーション 1) 実践実習の意義					
2. 指導・支援の活動プログラム 1) 肢体不自由及び知的障害の基礎理解 2) 肢体不自由の子どもへの動作指導の実際 3) 肢体不自由の子どもへの言語指導の実際 4) 知的障害（発達障害）の子どもへのコミュニケーションスキル指導の実際 5) 肢体不自由及び知的障害の子どもが興味を持つ教材・教具の作成実習					
3. 指導・支援の実習内容 1) 肢体不自由及び知的障害の子どもの「個別の支援計画」の作成 2) 肢体不自由及び知的障害の子どもの実態把握と課題設定 3) 肢体不自由及び知的障害の子どもの姿勢・動作指導 4) 肢体不自由及び知的障害の子どもの言語・コミュニケーション指導 5) 肢体不自由及び知的障害の子どもの心身リラクゼーション指導 6) 肢体不自由及び知的障害の子どもの教科の基礎学習					
4. 事例研究（カンファレンス） 1) 指導実践の報告と討議 2) 指導プログラムの計画及び実践と妥当性の評価					
5. 総括 1) 実践実習での学びのまとめ					